

## 巻頭言（2012年8月号）

理事長 新谷友良

### 国際難聴者会議

6月24日から30日まで、第9回国際難聴者会議に参加のため、ノルウェーのベルゲンに行っていました。国際難聴者会議は、国際難聴者連盟（IFHOH）が主催して4年に1度、オリンピックイヤーに開催されています。

なお、会議とは別に6月25日の午後、国際難聴者連盟の定期総会が開催されました。この総会は2年に一度開催されますが、4年に一度は国際難聴者会議と同時開催になります。今回は連盟の役員の変更があり、理事長の Dr. Ruth Warick は続投、事務局長は新しくベトナムから Ms. Phuong Hanh が選出されました。

会議は6月25日の開会式の後、26日から28日まで午前と午後、全体会と分科会プログラムがありました。全難聴は26日の午前の分科会で東日本大震災についての報告を行いました。また、パネル展示にも参加し、東日本大震災の救援活動の写真などのポスター展示を行いました。

今回の国際会議の参加者は400名と報告されていましたが、前回、前々回に比べてアジア・アフリカからの参加は少なかった印象です。全体会・分科会もヨーロッパ・北米の方の報告がほとんどを占めていました。そのような参加国・参加者の傾向を反映してか、報告は研究・実践内容を踏まえた学術的なものが多く、組織・運動面の報告は少なかった印象です。

開催国ノルウェーは人口400万人ですが、最初の全体会でノルウェー保健省の大臣は人口の14%が聴覚障害者と報告しました（別のスウェーデンの報告でも、やはり130万人[人口比14%]が聴覚障害者）。そして、聴覚障害が社会的問題であることの認識、医療と教育の重視、社会のすべてのレベルでの聴覚障害への取組み、言語聴覚士の専門訓練の強化など、ノルウェー政府としての聴覚障害への取組みを非常に明晰な言い方で発表しました。

また、環境としての騒音に言及し、音環境のユニバーサルデザインをノルウェーの国家施策（Norwegian Project）2009-2012として取り組んでいることの説明がありました。

国際会議の詳細は全難聴の会議参加実行委員会が「報告集」をまとめる

予定でいます。全難聴事務所にご連絡いただければ入手可能ですので、ご一読いただければと思います。